令和7年度きっかけ見つけ隊21

交流人口から関係人口へ
山口学芸大学PBL(地域課題解決演習）を通じて
地域と大学との協働

令和8年１月20日（火）

名田島自治会連合会

名田島地区の概況 ①

- 面積　約8．93k㎡
- 推計人口　1，134人　R7.12.31現在
  （男　527人、女　607人）
- 世帯数　538世帯
- 高齢化率　49．7％
- 65歳以上独居71人（令和2年国勢調査）





名田島地区の概況　②

・山口市南部に位置し、椹野川と南若川に囲まれ、地区の大部分が干拓によって形成された。海抜はゼロメートルに近く、大雨、津波による浸水など災害による被害を受けやすい地域である。

・少子高齢化も進展しており、高齢化率は市内21地区の中でも3番目に高い。

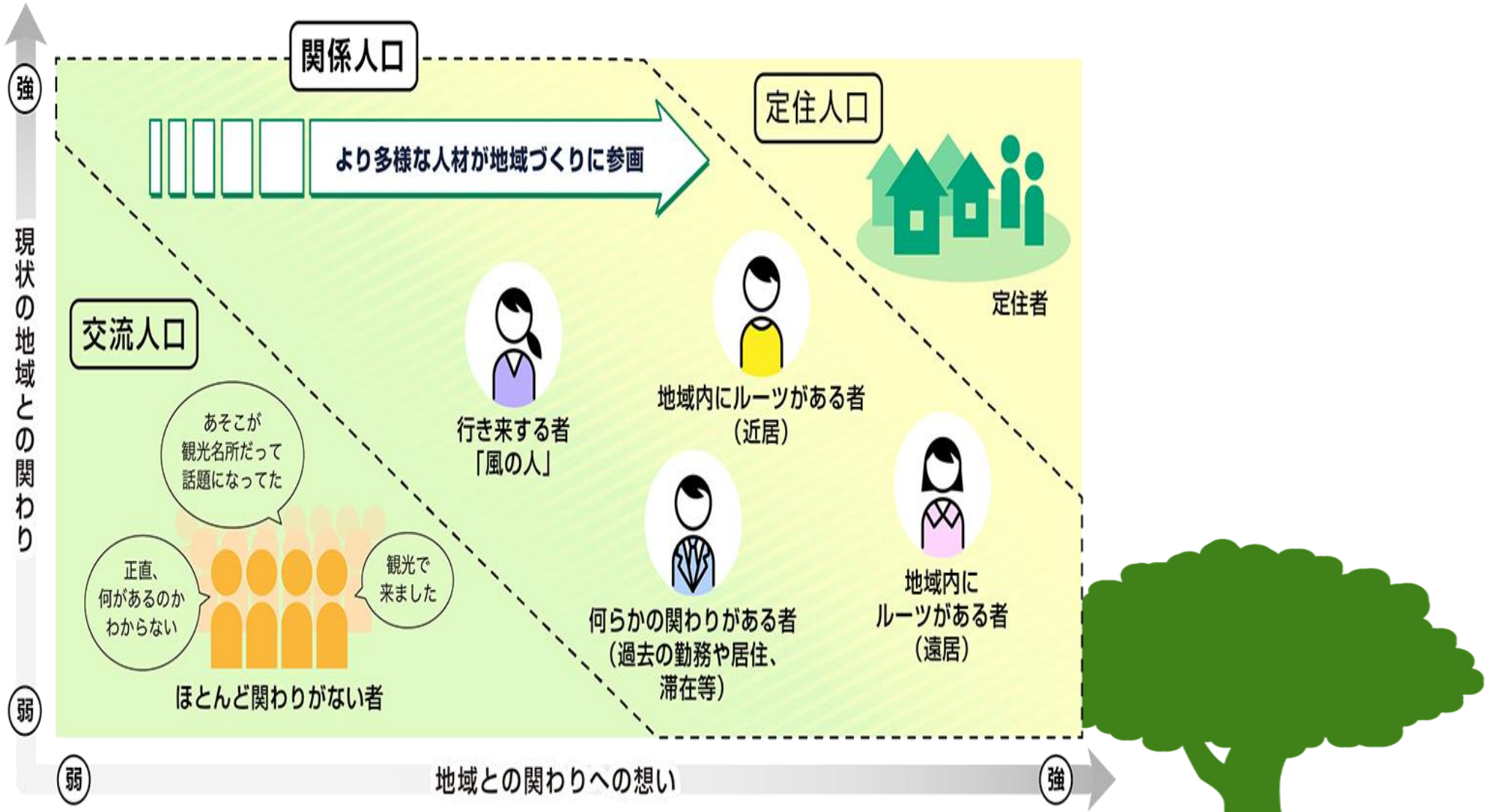
人口の減少を食い止めたい

若者の流出を食い止めることが大切。合わせて、若者の交流人口を増やし、短期間でも良いから関係人口になってもらいたい！



電柱への海抜表示

人口減少を食い止めたい、交流人口から関係人口へ



地域課題解決演習(PBL)とは、その目指すもの

「プロジェクト型課題解決学習（PBL）とは、社会が抱える課題に対して、学生数人と担当教官、企業・地方自治体、NPO 法人の担当者で構成されるプロジェクトが、解決を模索して活動していく学習形態です。学生は、その課題解決に取り組む過程で、いろんなことを学びます。そこでは、従来の研究室単位でのゼミ学習と違い、厳しい現実にも直面します。予算、活動時間、自分たちの能力など、限られた枠内で最良の結果を導き出していこうとする姿勢が求められます。「理想解」を追うのが従来の学習なら、PBLは「最適解」あるいは「現実解」を追う学習体系とも言えます。英語では配偶者のことをbetter halfと表現します。決してbest halfとは言わないのです。これと同じ「現実主義」(puragmatism)がPBLの根底には流れています。加えて、PBLでは「いかなる個人よりプロジェクトの方が賢い」という立場を取ります。

（福屋利信　周南公立大学客員教授のホームページより）

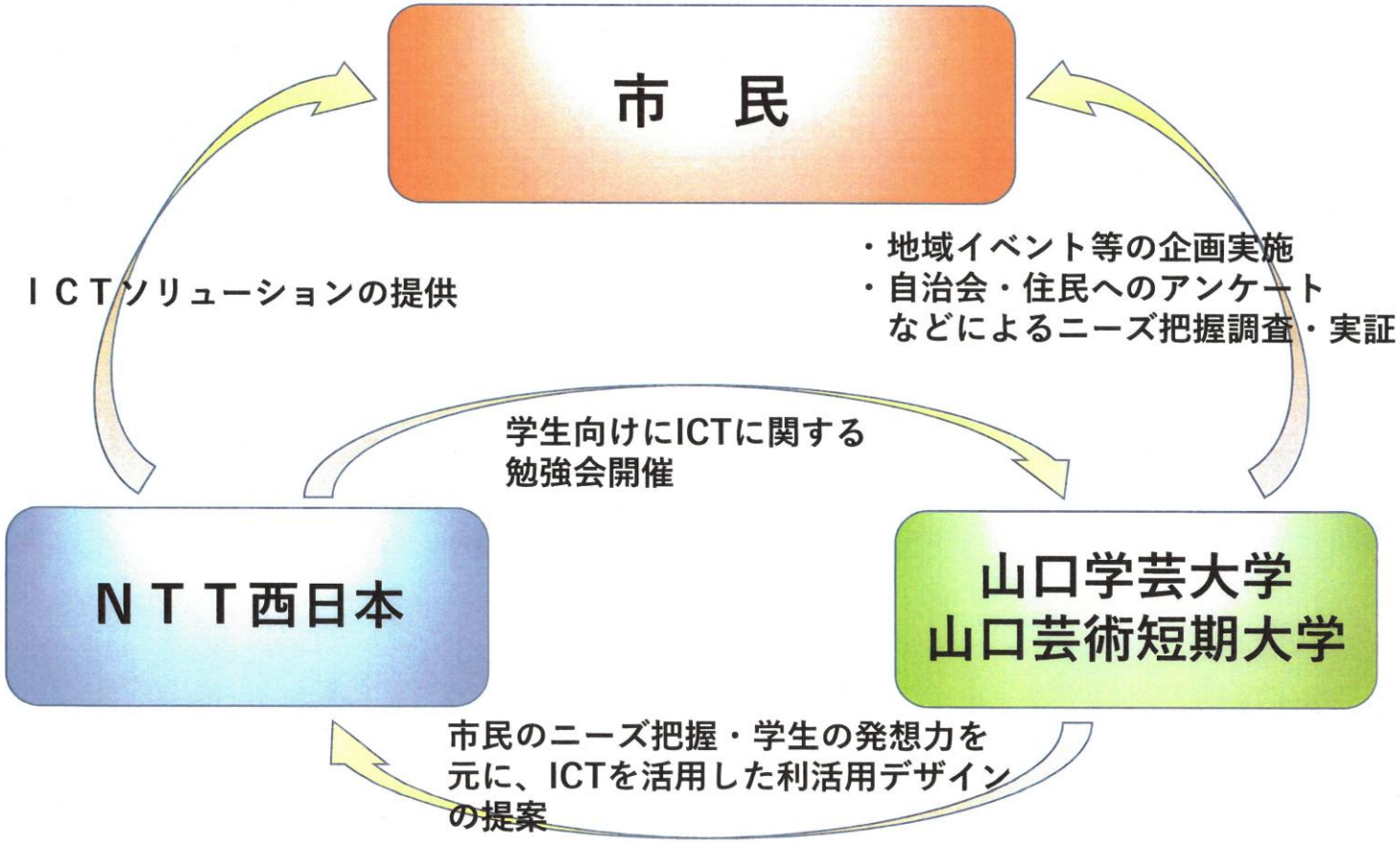


令和元年度　ＮＴＴ西日本山口支店をスポンサーとする山口学芸大学PBL授業へのフィールド提供依頼（山口市協働推進課より）

- 山口学芸大学では、令和２年度からPBLをカリキュラムに取り入れることになった。
- NTT西日本がパートナー企業（３年度継続事業、毎年度２０万円助成）となり、**「交流センターにおけるICTの利活用デザイン」**をテーマとして、山口学芸大学のPBLがスタートすることになった。現地演習を実施することが必要なため、フィールドを提供してくれる地域を決定することが必須となった。
- 山口学芸大学からは、フィールドとなる地域は、授業時間内(概ね１時間半）に学生が、自転車かバイクで往復可能な地域として欲しい旨要望されていた。

フィールド提供地域決定に先立ちＮＴＴ西日本山口支社から示されたPBLの取組イメージ

（別紙）　ＰＢＬの取り組みイメージ



フィールド提供地域決定に先立ちＮＴＴ西日本山口支社から山口学芸大学に示されていたPBLテーマイメージ

（別紙）山口学芸大学・山口芸術短期大学へのＰＢＬ* テーマイメージ

PBLテーマ：交流センターにおけるICTの利活用デザイン

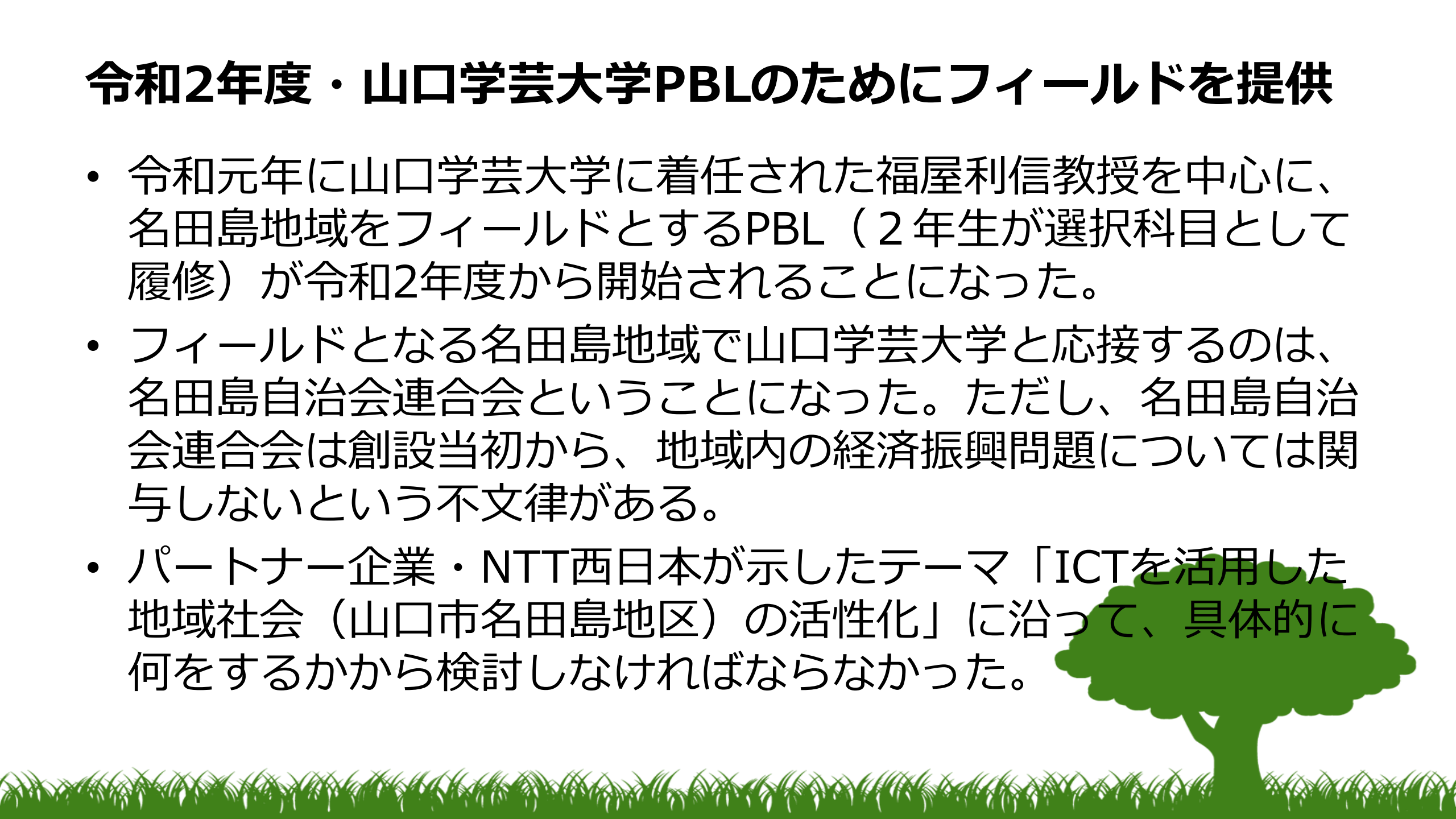
■山口市内の交流センターの平時・非常時求められる機能について、地域の自治会、住民へのヒアリングや共同検討・イベント等の企画実践を通じ、ICTを活用した利用シーンのデザイン



＊「プロジェクト型課題解決演習（PBL）」とは、学生がチームを組んで、実社会に存在する課題をテーマとして主体的にプロジェクトを企画実践すること

令和2年度・山口学芸大学PBLのためにフィールドを提供

- 令和元年に山口学芸大学に着任された福屋利信教授を中心に、名田島地域をフィールドとするPBL（２年生が選択科目として履修）が令和2年度から開始されることになった。
- フィールドとなる名田島地域で山口学芸大学と応接するのは、名田島自治会連合会ということになった。ただし、名田島自治会連合会は創設当初から、地域内の経済振興問題については関与しないという不文律がある。
- パートナー企業・NTT西日本が示したテーマ「ICTを活用した地域社会（山口市名田島地区）の活性化」に沿って、具体的に何をするかから検討しなければならなかった。



令和2年度　スポンサー企業の提示するテーマに沿った具体的課題設定から着手

- 令和2年3月24日(火)、学芸大学PBL関係者によるPBLのフィールドとなる名田島地域の実地実査を実施
- 令和2年7月3日(金)、PBL受講第1期生とともに、具体的課題決定のための名田島地区でのフィールドワークを実施
- 経済振興を目指す課題には地元の協力が得られないため、水害に弱い地域であることに着目して、「名田島災害避難アプリ（NADMA)制作」を最終目標として課題を設定
- フィールドワーク結果と外部資料を利用して、対象を名田島地区に絞ったアプリ「NADMAプロトタイプ」の作成開始

令和2年度　山口学芸大学PBLで「名田島地区災害避難アプリ（NADMA）」プロトタイプ一応完成、令和３年3月13日に名田島地区役員に対して発表会実施



令和3年度　山口学芸大学PBLで「名田島地区災害避難アプリ」の改良続行、ほぼ実用化の域に

- 令和３年１月に実施した「名田島地区住民防災意識及びICTスキル調査全戸アンケート」の集計結果を分析するとともに、同年３月に実施した「NADMA発表会」で収集した意見に基づき、より地域に密着し全年齢で使い易くする方向で、「名田島地区災害避難アプリ＋」(NADMA+)として開発を続行することになった。
- アップルティチャーである高下正明教授の指導も得て、大幅に改良した「NADMA+」が、令和３年１１月には一応実用に耐えうる段階に達した。
- 令和3年12月2日に名田島地区住民との「NADMA+発表・意見交換会」を開催したところ、今一歩の改良を望む声が多数寄せられた。
- そこで令和4年度には、さらにアプリ改良を進めるとともに、地区内での普及活動に着手する計画を立てた。

令和３年度　山口学芸大学PBLで、実用一歩手前に到達した名田島地区災害避難アプリ(NADMA+)　①









令和３年度　山口学芸大学PBLで、実用一歩手前に到達した名田島地区災害避難アプリ(NADMA+)　②





- 「今回実現できなかった件」には、行政機関内の情報（地域内の地域防災に関する情報）観測施設の雨量が川の水位や河川の水位など、名田島地区の危険箇所や避難場所、避難経路などの情報が含まれている。
- 地域住民を対象にアンケートを実施し、アプリの使いやすさや機能について意見を収集した。その結果、アプリの使いやすさや機能について、多くの住民から肯定的な評価を得ることができた。また、アプリの改善点や新たな機能の要望なども寄せられた。

令和４年度　名田島自治会連合会がパートナー団体となり、災害避難アプリ作成以外の課題解決も模索することに転換

- 従来のパートナー企業・NTT西日本が、令和３年度末で撤退したため、名田島自治会連合会が新たにパートナー団体となった。
- NTT西日本からの学芸大学PBL助成金がなくなったため、多額の必要経費が見込まれる「名田島災害避難アプリ+」の普及活動は断念せざるを得なかった。
- 「NADMA+」の改良だけは、前年度実施した「発表・意見交換会」での要望を尊重して、より地域に密着した情報を提供する方向で改善を進めることとし、名田島地区内の情報を収集する手段も提案した上で、令和４年度末をもって本課題を終了することになった。

令和４年度　NADMA+の改良と新規課題への取組

１　名田島地区フィールドワーク（5月22日(金)午後、引率教員
　　３名、PBL履修生　３９名）

２　令和４年度の課題

（１）NADMA+の改良とアンドロイド版アプリの開発

（２）NADMA+単独では実現できない機能の補足

①他のポピュラーアプリ（NHKニュース防災アプリ等）との連携

②廉価版河川監視カメラの試作機作成と設置・運用方法検討

③地区内緊急連絡網のICT化（DX）

（３）地域のICT化（ICT技術の普及＝DX）

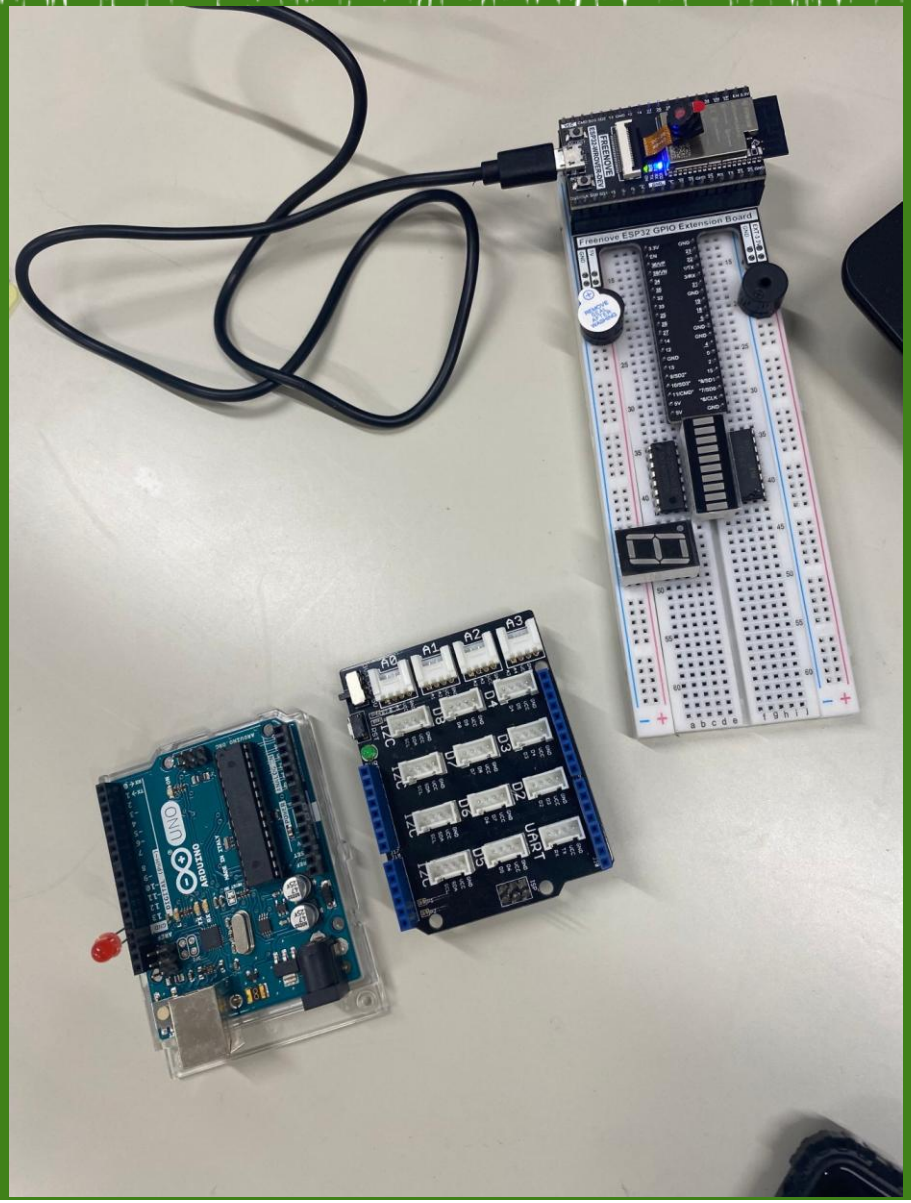
①ICT技術活用による地域活性化

②SNS等を活用した地域情報の発信

③ICT技術を活用した地域観光資源の開発



令和4年度　山口学芸大学PBL簡易型河川監視カメラの試作





令和５年度　山口学芸大学PBL　地域イベント「名田島小学校開設１５０周年記念事業」実施を全面応援

- 令和５年度から、パートナー団体である名田島自治会連合会が抱える最大の課題、「いかに人口減少を食い止め、地域コミュニティーを維持していくか」をどのように解決していくかを模索することにした。ただし、履修学生数が激減（R４年度39名⇒R5年度12名）しているので、対象課題を3題に絞り込んだ。

１　名田島地区フィールドワーク

（令和5年4月16日(日)午前、引率教員2名、PBL履修生12名）

令和５年度　山口学芸大学PBL　地域イベント「名田島小学校開設１５０周年記念事業」実施を全面応援

2　令和5年度の取組課題

（1）名田島ちょうちんちょこっと祭への企画参加

①　お化け屋敷の出展

②　来場者へのインタビュー

（2）名田島小学校開校150周年記念事業実施を支援する。

①　児童の「先輩インタビュー動画」の編集支援

②　開設150周年記念学習発表会(11月)の動画撮影及びリモート中継の支援

（3）「第4次名田島地区協働のまちづくり計画」策定のための全戸アンケートの集計と分析を行い、それに基づき提言を行う。

3　令和5年度山口学芸大学PBL学習成果発表会

（令和6年1月26日(金)午後、地元参加者13名）



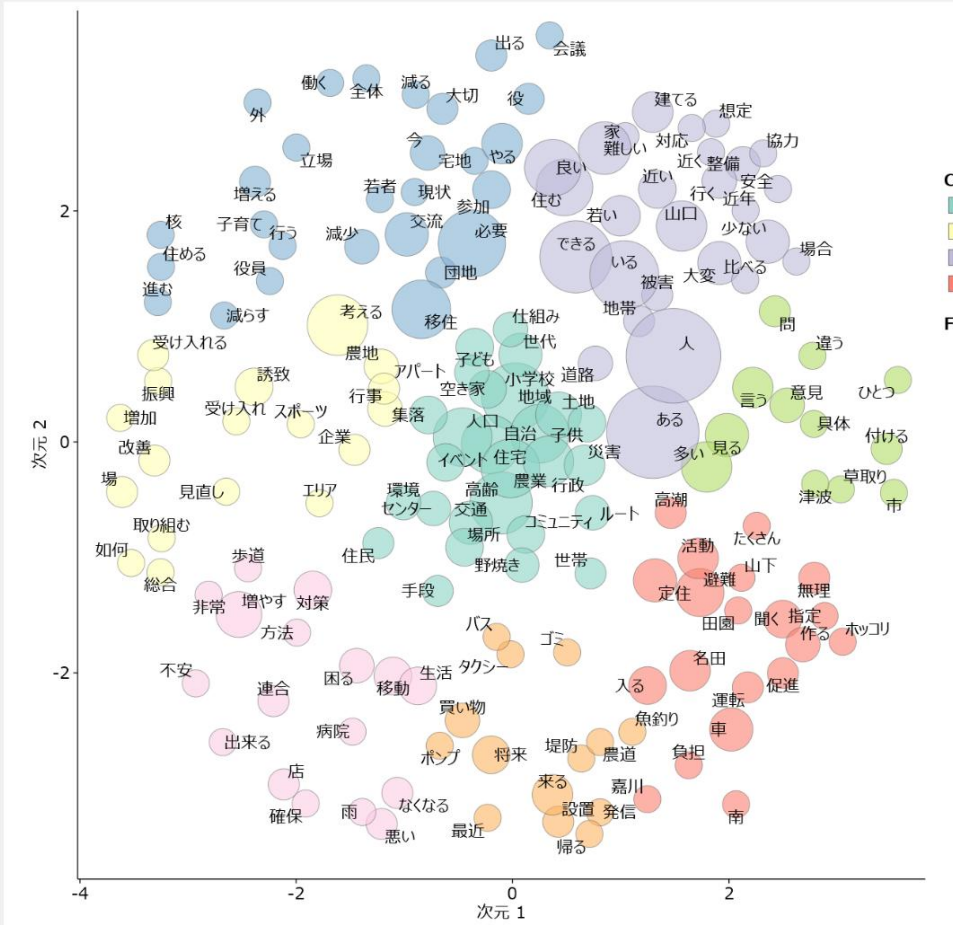
令和5年11月「山口学芸大学と名田島自治会連合会との「地域課題解決演習（PBL）」実施に関する覚書」を締結



- 令和3年度末でパートナー企業NTT西日本が撤退した後、暫定的に名田島自治会連合会がパートナー団体になっていたが、大学と自治会連合会の間で書面契約書が締結されていた訳ではなかった。
- 山口学芸大学と名田島自治会連合会との関係を明確にするため、令和5年11月29日(水)午後、名田島地域交流センターにおいて、「山口学芸大学と名田島自治会連合会とのPBL実施に関する覚書」交換式を行った。

令和５年度　山口学芸大学PBL　第４次名田島地区協働のまちづくり
計画策定のための全戸アンケート分析結果の一例

地域の困りごと　分析図



高齢化と過疎化・少子化（人口減少）に伴う「困りごと」の増加
→　住民と自治会と行政の連携強化

高齢化

- 家庭での電灯の取り換えや庭木の剪定など家庭内でのちょっとした困りごと
- 人口が少ない一方で高齢者が多いため、お世話をする人が少なくて大変貧弱
- 地域の清掃活動や共用地の草取りなどが負担になる
- 健康や体力面で不安を感じている人が多くなっているちょっとしたことも自分で解決できない
- 空き家や土地や田畑の管理と処分 耕作放棄地の問題 後継者の問題
- 地域の高齢化による困りごとが増えている。自力で解決できないことが増えていく

不便な地域・地域経済活動の低迷

- スーパーやコンビニなど買い物ができるお店がない
- 外科や歯科など医療機関がない
- バスの減便 公共交通機関が貧弱
- 夜間の街灯を増やしてほしい

人口減少

- 過疎化（人口減少）のために集落が維持できない集落が消滅する
- 役員の成り手不足 若い世代がやらない 自治体役員の負担増 役員は高齢者ばかり 同じ人ばかりが選ばれる
- イベントを企画・運営する人がいないイベント運営も任せっぱなしになる
- 行事に参加する人が減った 地区の運動会ができない

- 害獣対策 イノシシ ヌートリア
- 地域外からの釣り客 危険運転 ごみのポイ捨て 電気柵の盗難？
- 野焼き 他の地区では禁止されているのに平気でやっている
- 情報発信しないでほしい。荒らされる
- 情報発信も大切だが、マナーの悪い人がやってくるのは困るる

- 人口減少については別グループが扱います
- 移動手段（交通）については別グループが扱います
- 防災については別グループで扱います
- 行政や自治体への依存心が強い？
- 各自治体で特色が異なるので情報交換や情報収集が必要
- 他地区の対応策を聞いてみたい 他地区との交流イベントを行う
- 個人で解決できること 集落の自治体で取り組むべき課題と連合会で取り組むべき課題を区別する
- 空き家の利活用 空き家バンクの活用
- 地域と行政の連携不足
- 自治会と住民との連動性が低い
- 名田島地域の魅力発信
- 課題や解決法について話し合う場の必要性
- 移住者の受入れを積極的に行う

注目

- ワンコインで手助けを呼べるシステムづくり 相談できるネットワークづくり
- 困りごとを気楽に頼める人間関係づくり
- 名田島地域お助け隊（有志）の結成
- シルバー人材センターとの提携
- 大学や高校と連携して解決策を探る
- 民間企業との連携
- 住民同士世代間で交流できる場をつくって欲しい
- 困りごとについて話し合える場づくり 自治力の向上
- イベントが少ない 月1回イベントを企画する失敗してもよいから
- 地区外から手伝いを呼んでもイベントを開いてほしい
- 地域の若い世代の酸化を促進する
- 名田島の魅力発信
- 地域の子どもたちとのあいさつ運動
- 農業を愛する子どもを育てる 農業体験イベントを行う
- 子どもも含めた世代間の交流を目的としたイベントを行う

令和６年度　山口学芸大学PBL前期　地域イベント「名田島小学校グラウンド芝生化１０周年記念事業」実施応援

１　「地域課題解決演習（PBL）Ⅰ」（前期履修）

（1）名田島地区フィールドワーク
（4月26日(金)午後、引率教員3名、PBL履修生26名）

(2) 名田島ちょうちんちょこっと祭に「お化け屋敷」を出展
（8月2日(土)18～21時）

（3）名田島小学校グラウンド芝生化10周年記念「わくわくフェスタ」開催応援

①　小学生が出店した「フリスビードッグ」の運営を支援

②　大学生2グループが独自出店



令和6年　山口学芸大学PBL後期　名田島地域づくりアンケート分析に基づく課題解決策

2　「地域課題解決演習（PBL）Ⅱ」(後期履修)

（1）名田島の魅力発見　～新しい価値の創造を目指して～

（2）名田島フットパスの魅力発信
～豊かな自然の中で仲間を増やすプロジェクトN～

（3）島・東開作・西開作コースの魅力を発信し、交流人口を増やすためのリ・デザイン

（4）子ども中心の地域作り　～名田島地域での実践を通じて～

（5）地域のイベントに大学生が参加する意義
～関係人口の観点から～



令和6年度山口学芸大学PBLの年間活動を名田島自治会連合会グラフ誌「田園」で紹介

山口学芸大学「地域課題解決演習（PBL）」令和6年度の取組み

PBLとは、学習者が主体的に連携先の企業や団体（パートナー）の課題を明らかにし、解決策（プロジェクト）を企画して実施・検証するという実践的な学習方法です。山口学芸大学開設科目「地域課題解決演習（PBL）」においては、令和２年度より名田島地域を学習フィールドとして、地域の課題に取り組んでいます。これまで、防災や人口減少について学生なりに取り組んできました。

令和６年度は名田島地域フィールドワークや「まちづくりアンケート」の分析、「名田島ちょうちんちょこっとまつり（お化け屋敷担当）」への参加などを通して地域への共感や理解を深め、人口減少や高齢化などの課題に対し以下の5つのテーマを設定して解決に向けた創意工夫を実践しました。

❶名田島の魅力発見　～新しい価値の創造を目指して～
❷名田島フットパスの魅力発信　～豊かな自然の中で仲間を増やすプロジェクトN～
❸島・東開作・西開作コースの魅力を発信し、交流人口を増やすためのリ・デザイン
❹子ども中心の地域づくり　～名田島地域での実践を通して～
❺地域のイベントに大学生が参加する意義　～関係人口の観点から～



実践にあたっては、地域行事への参加やアンケートやヒアリングの実施などで、地域の皆様に多大なるご協力を賜りましたことを感謝申し上げます。報告会では学生たちから「成功だけでなく失敗からも学んだ」という発言も聞かれるなど、学習成果を強く実感することができました。

引き続き令和7年度もよろしくお願いします。



名田島地域
フィールドワーク



まちづくり計画
策定アンケートの分析



名田島ちょうちん
ちょこっとまつり
実行委員会



名田島小「熟議」

名田島フットパス取材





グラウンド芝生化10周年
わくわくフェスタ

令和6年度
地域課題解決演習（PBL）
実践報告会



令和７年度　山口学芸大学PBL　地域イベントに参加して、名田島の住民と交流し、その魅力を発信

1　「地域課題解決演習（PBL）Ⅰ」（前期履修）
（1）名田島地区フィールドワーク（5月2日(金)午後）
(2) 名田島ちょうちんちょこっと祭に「お化け屋敷」を出展
（8月2日(土)18～21時）

2　「地域課題解決演習（PBL）　Ⅱ」（後期履修）
（1）地域とともに育てる市民性　～小学校における調査を通した考察～
⇒①名田島小学校5・6年生が「名田島ふるさとまつり」に出店することを支援
②小学生の意識調査アンケートを実施

（2）地域外諸団体との連携模索を通した関係人口増加の取組
⇒①集落会館利用状況アンケート実施、②集落自治会長インタビュー
③農業体験ミニイベント実施



令和７年度　山口学芸大学PBL　地域イベントに参加して名田島の住民と交流し、その魅力を発信

（3）マインクラフト（ゲームアプリ）でつくる「みんなの名田島）
⇒「名田島ふるさとまつり」にマインクラフトのブースを出店

（4）ショート動画による名田島地域の魅力発信
⇒名田島地区内の名所を背景にダンス動画作成、コンテストに応募（TikTokアップ済み）

（5）スタンプラリーで「名田島ふるさとまつり」を活性化
～「名田島ふるさとまつり」の観客のばらつき解消策～
⇒「名田島ふるさとまつり」において、スタンプラリー実施

（6）PBLがもたらす地域交流の価値
～「名田島ふるさとまつり」でのパターゴルフ企画から～
⇒「名田島ふるさとまつり」にパターゴルフのブースを出店

3　名田島地区向けPBL成果報告会（令和8年1月23日予定）

令和７年度　山口学芸大学PBL
名田島ふるさとまつりへの出展





地域と大学がWIN WINの関係を構築し、受講生を関係人口として受け入れることが出来れば・・・

- 名田島地区のメリット

１　毎年２０名前後の山口学芸大学生が演習のため年間６回は名田島に来てくれる。

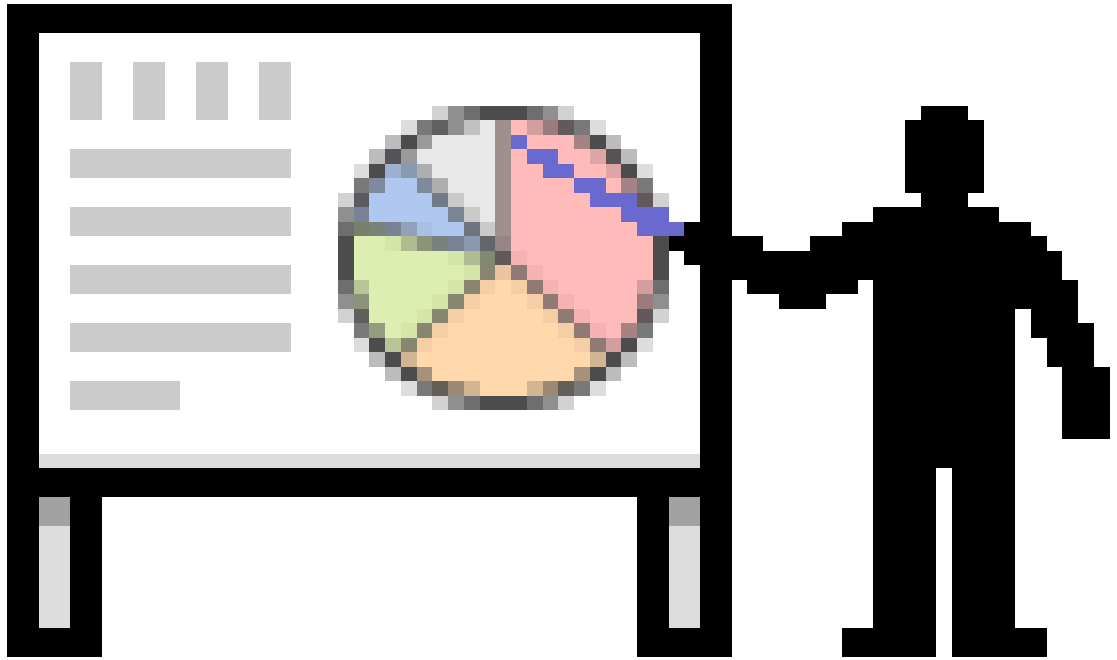
２　演習の一環として、履修生に名田島地区のイベントに出展または運営補助をしてもらえる。

３　名田島地区で所要のスキルを持った人材を一定数確保することは困難である。例えば、アンケートの集計・分析や最新のSNSを活用して名田島地区の情報を対外発信することを学芸大学生に任せることが出来る。

４　名田島の子ども達が10歳以上年上のお兄さんお姉さんに接することが出来るという大変貴重な機会が得られる。



ご静聴ありがとうございました。



参考になれば幸せます！！